

Title	小嶋祥三 略歴・著作目録一覧
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2009
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.67 (2009.) ,p.145- 151
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2008年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000067-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- 『コミュニケーション学がわかる』（共著）朝日新聞社，2004年。
 『人事マネジメントハンドブック』（共編著）日本労務研究会，2004年。
 『現代社会心理学』（共著）慶應義塾大学出版会，2005年。
 『21世紀の心の処方学—医学・看護学・心理学からの提言と実践—』（共著）アート アンド ブレーン，2008年。

【事典・辞典】

- 『経営行動科学辞典』（共編）創成社，1986年（1998年に改訂新版）。
 『ブリタニカ国際大百科事典』（共編）ブリタニカ・ジャパン，1995年。
 『人材開発事典』（共編）日本マンパワー出版，1998年。
 『経営学大事典』（共編）中央経済社，1999年。
 『ブリタニカ国際大百科事典』（電子オンライン版）（共編）ブリタニカ・ジャパン，2009年。

【訳書】

- 『C型人間—最高のプレッシャーのなかで最大の力を発揮する—』講談社，1985年（1990年に講談社現代文庫として再刊）。（原題：Robert Kriegel & MarilynH. Kriegel. *The C zone: Peak performance under pressure*. Doubleday Gradon-City, New York: Anchor Press, 1984.）

【その他】

- 『組織行動研究』No. 1～No. 30, 1977～2000年（責任編集）慶應義塾大学産業研究所（<http://www.kris.keio.ac.jp/>で供覧）

小嶋祥三 略歴・著作目録一覧

（平成21年1月1日現在）

〔生年月日〕

昭和18年12月26日（東京都生まれ）

〔学歴〕

昭和39年4月 早稲田大学第一文学部哲学科心理学専修入学
 昭和43年3月 同 卒業
 昭和43年4月 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程入学
 昭和45年3月 同 修了
 昭和45年4月 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程入学
 昭和47年1月 同 退学

[学位]

昭和53年3月23日 文学博士（京都大学）

[職歴]

昭和47年1月 京都大学霊長類研究所心理研究部門助手
 昭和61年1月 京都大学霊長類研究所神経生理研究部門助教授
 平成元年10月 京都大学霊長類研究所心理研究部門教授
 平成5年4月 京都大学霊長類研究所行動神経研究部門教授（改組による）
 平成11年4月 京都大学霊長類研究所所長
 平成15年3月 京都大学退職。
 平成15年4月 慶應義塾大学文学部教授
 昭和53年3月 米国 National Institute of Child Health and Human Development にて Guest Worker
 昭和53年9月 米国 National Institute of Mental Health にて Visiting Fellow 昭和55年2月帰国

非常勤講師

愛知大学，岐阜大学，北海道大学，大阪大学，筑波大学，日本福祉大学，早稲田大学

[業績]

【総説（単行本，監修，編集などを含む）】

- Minagawa-Kawai, Y., Naoi, N. & Kojima, S. (2009, in press) *A new approach to functional neuroimaging: Near-infrared spectroscopy (NIRS)*. Tokyo: Keio Univ. Press.
- 渡辺茂，小嶋祥三 (2007) 脳科学と心の進化。心理学入門コース，第7巻。Pp. 256，東京：岩波書店。
- 小嶋祥三 (2006) チンパンジーの聴覚と音声—ヒトの音声言語の理解を目指して—。認知リハビリテーション 2006, 1-10.
- 小嶋祥三 (2003) 声の発達と進化。神経研究の進歩，47: 667-674.
- Kojima, S. (2003) *A search for the origins of human speech: Auditory and vocal functions of the chimpanzee*. Pp. 195. Kyoto: Kyoto Univ. Academic Press.
- 小嶋祥三 (2002) ヒトの脳と他の霊長類の脳。岩立志津夫，小椋たみ子（編）言語発達とその支援，pp. 35-29, 京都：ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三 (2002) チンパンジーの聴覚と音声。石田英實，中務真人，萩原直道（編）人類学と霊長類学の展開，pp. 51-55, 京都：金星舎。
- Hashiya, K. & Kojima, S. (2001) Hearing and auditory-visual intermodal recognition in the chimpanzee. In: Matsuzawa, T. (ed.) *Primate origins of human cognition and behaviors*, pp. 155-189. Tokyo: Springer Verlag.
- 小嶋祥三，鹿取廣人 (2000a) (監修) ことばと心の発達，第3巻，渡辺茂（編）心の比較認知科学。Pp. 446, 京都：ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三，鹿取廣人 (2000b) (監修) ことばと心の発達，第4巻，久保田競（編）ことばの障害と脳の働き。Pp. 383, 京都：ミネルヴァ書房。

- 久保田競, 小嶋祥三 (2000) 行動の発達と前頭連合野。小嶋祥三, 鹿取廣人 (2000) (監修) ことばと心の発達, 第4巻, 久保田競 (編) ことばの障害と脳の働き, pp. 1-38, 京都: ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三 (2000) チンパンジーの聴覚と音声: 言語の起源と進化。基礎心理学研究, 18: 166-172.
- 小嶋祥三, 鹿取廣人 (1999a) (監修) ことばと心の発達, 第1巻, 正高信男 (編) 赤ちゃんの認識世界。Pp. 287, 京都: ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三, 鹿取廣人 (1999b) (監修) ことばと心の発達, 第2巻, 桐谷 滋 (編) ことばの獲得。Pp. 263, 京都: ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三 (1999a) 声からことばへ。小嶋祥三, 鹿取廣人 (1999b) (監修) ことばと心の発達, 第2巻, 桐谷 滋 (編) ことばの獲得, pp. 1-36, 京都: ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三 (1999b) ミラーニューロンと言語の起源。科学, 69: 404-408.
- 橋田浩一, 小嶋祥三 (1998) 言語の脳科学。科学, 68: 500-509.
- 落合牧子, 伊藤浩介, 泉明宏, 小嶋祥三 (1998) 老齡ザルの認知機能に関する研究。霊長類研究, 14: 95-102.
- 第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会 [小嶋祥三] (1997) (編) 認知・言語の成立: 人間の心の発達, pp. 178, 東京: クバプロ。
- 小嶋祥三 (1997a) チンパンジーとヒトの声の発達を比較する。第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会 [小嶋祥三] (編) 認知・言語の成立: 人間の心の発達, pp. 68-75, 東京: クバプロ。
- 小嶋祥三 (1997b) ことばの組織化。小嶋謙四郎 (編著) 乳児心理学—人間発達の基礎, pp. 81-116, 東京: 川島書店。
- 小嶋祥三 (1997c) チンパンジーとヒトの音響環境の受容。KGテクノフォーラム, No. 4, 10-13.
- 小嶋祥三 (1996a) サルの研究からみたヒトの音声言語。音声言語医学, 37: 257-261.
- 小嶋祥三 (1996b) 動物の声とことば。JOHNS, 12: 827-830.
- 小嶋祥三 (1995a) 動物の意識: 霊長類の自己鏡映像への反応。失語症研究, 15: 141-147.
- 小嶋祥三 (1995b) 聞くこと。本吉良治 (編) 心と道具: 知的行動からみた比較心理学, pp. 61-81, 東京: 培風館。
- 小嶋祥三 (1994a) 動物研究の意義。心理学評論, 36: 18-30.
- 小嶋祥三 (1994b) ヒトとチンパンジーの音声発達。久保田競 (編), 発達と脳のメカニズム, pp. 21-51, 京都: ミネルヴァ書房。
- 小嶋祥三 (1994c) ことばの起源。SUT Bull. No. 9: 4-9.
- 小嶋祥三 (1994d) 何が音声言語を可能にしたのか。日経サイエンス, No. 10: 26-31.
- 小嶋祥三 (1993) チンパンジーの聴覚と音声に関する研究。霊長類研究, 9: 165-178.
- 小嶋祥三 (1992) 人類が最初に発した言葉は? 歴史読本ワールド, 11月号, 108-114.
- 小嶋祥三 (1991a) サルとヒトの発達: 音声発達を中心に。早稲田心理学年報, 23: 21-31.
- 小嶋祥三 (1991b) サルの音声コミュニケーション。遺伝, 45(7): 31-35.
- 小嶋祥三 (1991c) サルの研究からみたヒトの左半球優位。久保田競編, 左右差の起源と脳, pp. 15-31, 東京: 朝倉書店。
- 小嶋祥三 (1991d) チンパンジーの聴覚と音声。情報処理, 32(11): 1175-1183.
- 小嶋祥三 (1990a) 聴く listening—サルの場合。Brain Medical, 2: 39-47.

- 小嶋祥三 (1990b) 男の声, 女の声, サルの声。言語, 19(7): 44-51.
- 小嶋祥三 (1989) ヒト化と音声言語。江原昭善編, サルはどこまで人間か—新しい人間学の試み—, pp. 258-274, 東京: 小学館。
- 小嶋祥三 (1988a) チンパンジーの聴覚, 音声知覚, 発声—ヒトの音声言語の起源を求めて。霊長類研究, 4: 44-65.
- 小嶋祥三 (1988b) チンパンジーとヒトの聴覚, 音声知覚, 発声。生物科学, 40: 87-93.
- 小嶋祥三 (1988c) サルの研究からみたヒトの音声言語。聴覚言語障害, 17: 19-24.
- 小嶋祥三 (1988d) サルの音声発達とヒトの音声言語。文部省特定研究「咀嚼システムの基礎的研究」総括班(編) 咀嚼システムの形成と適応, pp. 139-147, 東京: 風人社。
- 小嶋祥三 (1988e) 破壊による研究。鈴木寿夫, 酒田英夫編, 新生理科学大系12, 第1編, 連合野, 第4章, II, pp. 189-202, 東京: 医学書院。
- 小嶋祥三 (1988f) 動物の脳。現代のエスプリ, 258 (脳とこころ), pp. 130-140.
- 小嶋祥三 (1988g) 霊長類の神経心理学の近況。杉下守弘(編) 脳から心へ—神経心理学へのいざない, pp. 143-163, 東京: サイエンス社。
- 小嶋祥三 (1985) 前頭前野と短期記憶。精神医学, 27: 625-631.
- 小嶋祥三 (1984) 動物の記憶コードとその生理学的対応。早稲田心理学年報, 16: 29-35.
- 小嶋祥三 (1983a) 霊長類による記憶の研究。岡野恒也編著, 霊長類心理学I, pp. 119-154, 東京: プレーン出版。
- 小嶋祥三 (1983b) 霊長類の神経心理学の近況。サイコロジー, 38: 40-47.
- 小嶋祥三 (1981) 遅延反応 (delayed response) と前頭連合野。第19回生理心理学, 精神生理学懇話会講演抄録集, pp. 8-17.
- 小嶋祥三 (1975) 実験的行動分析と脳機能の研究。心理学評論, 18: 198-206.
- 山中祥男, 川口 武, 小嶋祥三 (1969a) 脳内自己刺激の行動理論的考察。心理学評論, 12: 279-308.
- 山中祥男, 川口 武, 小嶋祥三 (1969b) 脳内自己刺激の生理心理学的考察。心理学評論, 12: 309-329.

【論文】

- Ishizu, T., Ayabe, T. & Kojima, S. (2009) Temporal dissociation of global and local features by hierarchy of vision. *International Journal of Neuroscience*, 119(3): 373-383.
- Ayabe, T., Ishizu, T., Kojima, S., Urakawa, T., Nishitani, N., Kaneoke, Y & Kakigi, R. (2008) Neural processes of attentional inhibition of return traced with magnetoencephalography. *Neuroscience*, 156(3): 769-780. (Oct 15)
- Ishizu, T., Ayabe, T. & Kojima, S. (2008) Configurational factors in the perception of faces and non-facial objects: An ERP study. *International Journal of Neuroscience*, 118(7): 955-966. (July)
- Minagawa-Kawai, Y., Matsuoka, S., Dan, I., Naoi, N., Nakamura, K., Kojima, S. (2008) Prefrontal activation associated with social attachment: facial-emotional recognition in mothers and infants. *Cerebral Cortex*, (May 30)
- Tsujii, T., Masuda, S., Wada, S., Watanabe, S. & Kojima, S. (2007) Involvement of prefrontal cortex in face/voice integration processing. In Watanabe, S., Tsujii, T. & Keenan, J. P. (Eds.) *Comparative So-*

- cial Cognition, Tokyo: Keio Univ. Press. Pp. 251–265.
- So, H. & Kojima, S. (2007) Moral judgment: A near infrared spectroscopy experiment. In Watanabe, S., Tsujii, T. & Keenan, J. P. (Eds.) *Comparative Social Cognition*, Tokyo: Keio Univ. Press. Pp. 203–208.
- Minagawa-Kawai Y, Mori K, Naoi N, Kojima S. (2007) Neural attunement processes in infants during the acquisition of a language-specific phonemic contrast. *J. Neurosci.*, 27: 315–321.
- Hashimoto, T., Minagawa, Y. and Kojima, S. (2006) Motion illusion activates the visual motion area of the brain: A near infrared spectroscopy (NIRS) study. *Brain Res.*, 1077: 116–122.
- Hashimoto, T., Usui, N., Taira, M., Nose, I., Haji, T. and Kojima, S. (2006) The neural mechanism associated with the processing of onomatopoeic sounds. *Neuroimage*, 31: 1762–1770.
- Izumi, A. & Kojima, S. (2004) Matching vocalizations to facial gestures in a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Animal. Cognition*, 7: 179–184.
- Kojima S. (2003) Experimental analyses of body image in the chimpanzee. *Primates*, 44: 231–238.
- Kojima, S., Izumi, A. & Ceugniet, M. (2003) Identification of vocalizers by pant hoots, pant grunts and screams in a chimpanzee. *Primates*, 44: 225–230.
- Tsuchida, J., Kubo, N. & Kojima, S. (2002) Position reversal learning in aged Japanese macaques. *Behav. Brain Res.*, 129: 107–112.
- Hashiya, K. & Kojima, S. (2001) Acquisition of auditory-visual intermodal matching-to-sample by a chimpanzee (*Pan troglodytes*): comparison with visual-visual intramodal matching. *Anim. Cogn.* 4: 231–239.
- Izumi, A., Kuraoka, K., Kojima, S. & Nakamura, K. (2001) Visually guided facial actions in rhesus monkeys. *Cog. Affect. Behav. Neurosci.*, 1: 266–269.
- Nakamura, K., Kawashima, R., Sugiura, M., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Nagumo, S., Kubota, K., Fukuda, H., Ito, K. & Kojima, S. (2001) Neural substrates for recognition of familiar voices. A PET study. *Neuropsychologia*, 39: 1047–1054.
- Itoh, K., Izumi, A. & Kojima, S. (2001) Object discrimination learning in aged Japanese monkeys. *Behav. Neurosci.*, 115: 259–270.
- Okamoto, K., Agetsuma, N. & Kojima, S. (2001) Greeting behavior during party encounters in captive chimpanzees. *Primates*, 42: 161–165.
- Kawashima, R., Hatano, G., Oizumi, K., Sugiura, M., Fukuda, H., Ito, K., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K. & Kojima, S. (2001) Different neural systems for recognizing plants, animals, and artifacts. *Brain Res. Bull.*, 54: 313–317.
- Kojima, S. (2001) Early vocal development in a chimpanzee infant. In Matsuzawa, T. (ed.) *Primate origins of human cognition and behaviors*, pp. 190–196. Tokyo: Springer Verlag.
- Sugiura, M., Kawashima, R., Nakamura, K., Okada, K., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Ito, K., Kojima, S. & Fukuda, H. (2000) Passive and active recognition of one's own face. *NeuroImage*, 11: 36–48.
- Kawashima, R., Sugiura, M., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Ito, K., Fukuda, H., Kojima, S. & Nakamura, K. (1999) The human amygdala plays an important role in gaze monitoring: A PET study. *Brain*, 122: 779–783.

- Nakamura, K., Kawashima, R., Ito, k., Sugiura, M., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Nagumo, S., Kubota, K., Fukuda, H. & Kojima, S. (1999) Activation of the right inferior frontal cortex during assessment of facial emotion. *J. Neurophysiol.*, 82: 1610–1614.
- Nakamura, K., Kawashima, R., Nagumo, S., Ito, K., Sugiura, M., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Kubota, K., Fukuda, H. & Kojima, S. (1998) Neuroanatomical correlates of the assesment of facial attractiveness. *NeuroReport*, 9: 753–757.
- Hashiya, K. & Kojima, S. (1997) Auditory-visual intermodal matching by a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Jap. Psychol. Res.*, 39: 182–190.
- Imaizumi, S., Mori, K., Kiritani, S., Kawashima, R., Sugiura, M., Fukuda, H., Ito, K., Kato, T., Nakamura, A., Hatano, K., Kojima, S. & Nakamura, K. (1997) Vocal identification of speaker and emotion activates different brain regions. *NeuroReport*, 8: 2809–2812.
- Kojima, S. (1992) Hearing and speech perception in the chimpanzee. In Nishida, T. et al. (eds.) *Topics in primatology*, Vol. 1, Human origins, pp. 249–255. Tokyo: Univ. Tokyo Press.
- Kamada, T., Kameda, K. & Kojima, S. (1991) Auditory evoked potentials in the Japanese monkey. *J. Med. Primatol.*, 20: 284–289.
- Kojima, S. (1990a) Comparison of auditory functions in the chimpanzee and human. *Folia Primatol.*, 55: 62–72.
- Kojima, S. (1990b) Audition and speech perception in the chimpanzee. *Proc. Int. Conf. on Spoken Language Processing* 90, 2: 749–752.
- Kojima, S., Tatsumi, F.I., Kiritani, S. & Hirose, H. (1989) Vocal-auditory functions of the chimpanzee: Consonant perception. *Human Evol.*, 4: 403–416.
- Kojima, S. & Kiritani, S. (1989) Vocal-auditory functions in the chimpanzee: Vowel perception. *Int. J. Primatol.*, 10: 199–213.
- Kojima, S. (1988) Short-term memory in the macaque monkey: coding response during delay interval. *Int. J. Neurosci.*, 38: 393–399.
- Kojima, S. (1987) Hearing in a chimpanzee. *Ann. Bull. RILP*, 21: 69–73.
- Kojima, S. (1986) Short-term memory in the macaque monkey: cue-reproducing response during delay interval. *Int. J. Neurosci.*, 29: 281–290.
- Kojima, S. (1985) Auditory short-term memory in the Japanese monkey. *Int. J. Neurosci.*, 25: 255–262.
- Kojima, S. & Goldman-Rakic, P. S. (1984) Functional analysis of spatially discriminative neurons in pre-frontal cortex of rhesus monkey. *Brain Res.*, 291: 229–240.
- Kojima, S. & Goldman-Rakic, P. S. (1982) Delay-related activity of pre-frontal neurons in rhesus monkeys performing delayed response. *Brain Res.*, 248: 43–49.
- Kojima, S., Kojima, M. & Goldman-Rakic, P. S. (1982) Operant behavior analysis of memory loss in monkeys with prefrontal lesions. *Brain Res.*, 248: 51–59.
- Fuji, K. & Kojima, S. (1981) Acquisition of depth discrimination in a Japanese macaque: a preliminary study. *Percept. Motor Skills*, 52: 827–830.
- Kojima, S., Matsumura, M. & Kubota, K. (1981) Prefrontal neuron activity during delayed-response

- performance without imperative GO signals in the monkey. *Exp. Neurol.*, 74: 396-407.
- Kojima, S. (1980a) Short-term memory in the rhesus monkey: a behavioral analysis of delayed-response performance. *J. Exp. Anal. Behav.*, 33: 356-368.
- Kojima, S. (1980b) Prefrontal unit activity in the monkey: relation to visual stimuli and movements. *Exp. Neurol.*, 69: 110-123.
- Kubota, K. & Kojima, S. (1976) Prefrontal unit activity of under-trained monkeys in delayed-response task. In Shahani, M. (ed.) *The motor system: neurophysiology and muscle mechanisms*. pp. 317-327, Amsterdam: Elsevier.
- 小嶋祥三, 今井もと子 (1971) 回避反応における“Kamin effect”について。異常行動研究会誌, 11: 44-50.
- 小嶋祥三, 田中道子, 山中祥男 (1970) シロネズミにおける脳内強化遅延の弁別学習に及ぼす効果。動物心理学年報, 29: 97-108.
- 小嶋祥三 (1968) ネズミの脳内刺激強化による反応強度に及ぼす試行間隔の影響。動物心理学年報, 18: 11-24.